

# 祈りと祝福の藍布

## 中国貴州ろうけつ染め展

日中友好会館美術館

2012年1月28日(土)~2月22日(水)

日中友好会館美術館は、中国西南部の貴州省に暮らす少数民族による「ろうけつ染め」作品の展覧会「祈りと祝福の藍布—<sup>あいぬの</sup>中国貴州ろうけつ染め展」を開催いたします。

### ポイント

- ◎「ろうけつ染め」という民間の染め織物の技法は、中国の無形文化遺産に登録されています。ろうけつ染めの郷と呼ばれる貴州省の代表的な少数民族の染め物を、国立中国美術館の所蔵品から選りすぐりました。
- ◎「祈りと祝福の藍布」というテーマに基づき、祖先を祀る「<sup>さいこばた</sup>祭鼓幡」と子孫を祝福する「<sup>こもりおび</sup>子守帯」を中心に、衣服や装飾品などを約60点展示いたします。

### 展示品紹介（一部）

※画像データをご希望の方はお申し付け下さい。

#### <sup>さいこばた</sup>祭鼓幡（招魂幡）

祭鼓幡とは、ミャオ族がろうけつ染めで作る5、6メートルの招魂幡です。この幡は、十三年に一度の「祭鼓節」と呼ばれる盛大な祭事に用いられます。彼らは、祖先たちの苦勞を忘れず、「木鼓」という太鼓を叩くことで祖先の魂を呼び起こします。そのとき、祭鼓幡が祖先の魂を迎えるために掲げられます。



人首龍紋祭鼓幡 貴州榕江 ミャオ族 560×42 cm



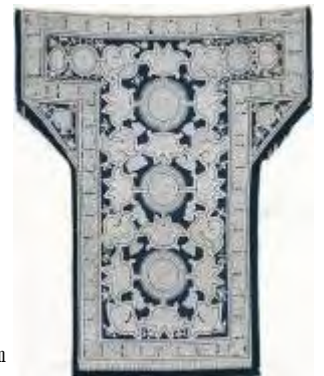
百鳥紋祭鼓幡  
貴州榕江 ミャオ族 320×82 cm

#### <sup>こもりおび</sup>子守帯

子守帯は、子どもの運命や未来と密接に結びつくと考えられており、各民族のルーツを物語る神話や、虎目紋や太陽紋、龍紋など、子どもを邪気から守るための模様が施されます。そのため、子守帯は、たんなる日用品以上の意味を持ち、各家庭においてしばしば家宝として扱われます。



龍蝶鳥紋子守帯  
貴州榕江 ミャオ族 81×155 cm



太陽紋子守帯  
貴州黄平 革家 80×64 cm

---

## 【開催趣旨】

ろうけつ染めは、絞り染めや藍染めと並んで中国の無形文化遺産として登録されている民間の染め織物の技法です。歴史文献には、二千年以上も前の文物のなかに、すでに民間の染め織物がみられたことが記されています。ろうけつ染めは、とくに貴州省の少数民族のなかで受け継がれてきました。代表的なのはミャオ族、革家\*、プイ族のものです。

ろうけつ染めは、おもに女性の仕事です。貴州省の少数民族の女性たちは、昔ながらの方法を守り、染め織物の技法を母から娘へと伝えてきました。彼女たちは、布や染料の原料となる植物を自分で育てます。そして、糸を紡いで布を織り、蠟で絵を描き、藍色で染め、彩色を加え、裁断し、生活用品や祭儀品を作ります。

そこには、民族それぞれの美意識や世界観を反映した多彩な図案や紋様が描かれます。さらに蠟のひび割れが偶然に生み出す独特の氷紋が加わり、ろうけつ染めの藍布には人為を越えた美しさが現れています。

この藍布は、祖先への祈りや子孫への祝福のためにも重要な役割を果たします。彼らは藍色の布に、吉祥や守りを意味する紋様や民族の物語を描き、平和な暮らしを祈ります。

今回は「祈りと祝福の藍布」というテーマに基づき、祭鼓幡と子守帯を中心に、国立中国美術館の豊富な収蔵品から、選りすぐりの作品を約 60 点展示します。

\*革家とは、中国で分類されている 56 の民族に属さない少数民族です。主に貴州省に住み、文字を持たず、周辺に住む他の少数民族とは全く異なる言語や文化を持っています。

---

## 【開催概要】

**展覧会名：**「祈りと祝福の藍布—中国貴州ろうけつ染め展」

**会 期：**2012年1月28日（土）～2月22日（水）／ 月曜休館

**開館時間：**10:00～17:00 / 入場無料

**会 場：**日中友好会館美術館 〒112-0004 東京都文京区後楽 1-5-3

**主 催：**財団法人日中友好会館、国立中国美術館

**後 援：**中国駐日大使館、(社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、(財)日中経済協会、(社)日中協会、日本華僑華人聯合總會、東京中国文化センター

**開 幕 式：**2012年1月31日（火）15:00より

※共催団体の国立中国美術館副館長はじめとする関係者が来日予定。

開幕式終了後、展覧会場にて国立中国美術館館員による作品解説有り（約20～30分）

。

**展示内容：**中国貴州省の少数民族によるろうけつ染めの作品の展示。とくに祖先を祀る「祭鼓幡」と子孫を祝福する「子守帯」を中心に、衣服や装飾品など、約60点を展示する。

**巡 回 展：**山梨県身延町なかとみ現代工芸美術館(2012年4月13日（金）～5月20日（日）を予定)

ホームページ：<http://www.jcfc.or.jp>

アクセス：都営大江戸線・飯田橋 C3 出口より徒歩1分／JR総武線飯田橋駅東口より徒歩7分  
東京メトロ 東西線・有楽町線・南北線飯田橋駅 A1 出口より徒歩7分／丸の内線後楽園駅より徒歩10分

問い合わせ：財団法人 日中友好会館 文化事業部 担当：甘（カン）、小林

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-5-3

TEL：03-3815-5085／FAX：03-3811-5263 e-mail：bunka@jcfc.or.jp

以 上

## 参考資料

### 1、「ろうけつ染め」の衣装を着るミャオ族女性たち

文字を持たない少数民族は、民族の神話を織物に染め抜いて受け継いできました。衣装の紋様には、芸術性だけでなく、民族の歴史が刻まれています。



### 2、革家女性衣装（革家 1970年代）

少数民族革家の女性の晴れ着です。「ろうけつ染め」の幾何学紋様を代表する太陽紋などが染抜かれています。彼らは、七個の太陽による苦しみから人々を守ったという祖先の神話を受け継ぎ、祖先を敬う気持ちを衣装に表現しています。



### 3、四鳥ザクロ紋子守帯（部分）

（ミャオ族 1970年代 75×74.5cm）

貴州省の安顺地域に特有の、多色によるろうけつ染めの技法を用いた作品です。四羽の鳥が太陽の回りを飛ぶ紋様を中心に、ザクロや様々な花が、色鮮やかに染め抜かれています。ミャオ族にとって、鳥は祖先の象徴であり、鳥紋は子孫の平安を守る意味が込められています。



### 4、魚紋頭巻布(制作段階 ミャオ族 2003年 38×38cm)

ミャオ族の女性たちは、蜜蝋で紋様を描き、甕の中で藍色に染めています。本展では、染める前の布も展示します。紋様を蜜蝋で描いた段階の、普段は見ることができない布です。